

川瀬巴水 旅と郷愁の風景

《馬込の月》東京二十景 1930（昭和5）年 渡邊木版美術画舗蔵
—「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」より—

- 前田利為のコレクション【前田育徳会尊經閣文庫分館】
古九谷とその展開【古美術】
 - 四季の移ろいⅣ【近現代工芸】
みんなで楽しむ美術館 よく見てみつけ！【近現代絵画・彫刻・工芸】
 - 特別陳列 前田家の至宝Ⅰ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
 - 茶道美術名品展Ⅰ【古美術】
 - 模様を楽しむ【近現代工芸】
 - モダン 近代逍遙【近現代絵画・彫刻】
 - Rey Camoy – 鴨居玲 晩年の肖像 –【近現代絵画】
- 企画展Topics
 - 行事予定

企画展(第7・8・9展示室) 川瀬巴水 旅と郷愁の風景

主催 北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館

後援 石川県、金沢市、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、エフエム石川

特別協賛 アルスコンサルタンツ、東海東京証券 特別協力 渡邊木版美術画舗

資料提供 大田区立郷土博物館

企画協力 ステップ・イースト

9月2日(土)～10月1日(日) 会期中無休

大正から昭和にかけて活躍した木版画家・川瀬巴水(1883～1957〔明治16～昭和32年〕)。近代化の波が押し寄せ、街や風景がめまぐるしく変貌していく時代に、巴水は日本の原風景を求めて全国を旅し、庶民の生活が息づく四季折々の風景を描きました。

巴水とともに木版画制作の道を歩んだのが、新時代の木版画「新版画」を推進した版元の渡邊庄三郎(現・渡邊木版美術画舗初代)や彫師、摺師といった職人たちです。四者は一体となって協業し、伝統技術を継承しながらもより高度な技術の活用を求めました。そして新たな色彩や表現に挑み続け、「新版画」を牽引する存在として人気を博します。

本展では、季節や天候、時の移ろいを豊かに表現し「旅情詩人」とも呼ばれた川瀬巴水の画家としての生涯を、初期から晩年までの代表的な作品とともに紹介します。まとめて観る機会の少ない連作(シリーズ)も含め約180点を展示し、叙情的な巴水の世界へと誘います。

《平泉金色堂》1957(昭和32)年
渡邊木版美術画舗蔵

◆観覧料

一般…1,200円(1,000)

高校・大学生…900円(700)

小中学生…600円(400)

※()内は前売り・団体料金

※未就学児無料

※当館友の会会員は会員証を提示で会員本人のみ団体料金で入場可、当館優待券をお持ちの方は優待券を提示でご本人様のみ無料で入場可。

※本展は、当館の単独主催ではないため、右記以外の通常、美術館で適用されている各種割引／優待は対象外です。

◆お問合せ

北陸中日新聞事業部

電話 076-233-4642(平日10時～17時)

石川テレビ放送企画事業部

電話 076-267-6483(平日10時～17時)

《西伊豆木負》1937(昭和12)年6月
渡邊木版美術画舗蔵

《芝増上寺》東京二十景 1925(大正14)年
渡邊木版美術画舗蔵

近現代工芸(第5展示室)

四季の移ろいⅣ

7月29日(土)～9月11日(月) 会期中無休

今年度コレクション第5展示室では四季の移ろいⅠ～Ⅳと題して、共通としたタイトルから、さまざまな切り口で展示をお届けしています。Ⅳでは「夏さんぽ 秋さんぽ」をテーマに、夏から秋にかけて身近に見られる風景や、美しい実りを楽しめる作品を特集しました。

展示室中ほどにかけて柘榴^{ざくろ}や秋草の作品が並んでいます。春秋草とタイトルがつく作品はどの分野にも多くみられるのですが、実りをテーマとした中に柘榴をモチーフとした作品も今回多く集めてみました。伊豆藏寿郎《染釉裏紅柘榴文飾皿》や竹田恒夫《釉裏金彩柘榴紋鉢》等、木の姿、実の色鮮やかさなどから美しさをみつけてみてください。散歩気分でのんびりと作品鑑賞を楽しんでいただきたいと思います。

前田育徳会尊經閣文庫分館

前田利為のコレクション

7月29日(土)～9月11日(月) 会期中無休

生涯に4度渡欧した利為は、その都度各地の美術館を訪れ、西洋画への理解を深めます。帰国後も上野の展覧会へ足を運び、気に入った作品は買い求めました。「仏国美術展覧会」(大正13)では、ブリカールの《少女海水浴図》を購入しますが、価格の高騰に驚いたようです。

四度目の渡欧となる昭和2年には、建設中の駒場の西洋館を飾る油彩画を買い求めます。ルノワールの《アネモネ》を購入したほか、アマン・ジャンの《婦女弹琴図》については、客室に飾るよう指示しました。

当時のフランスでは肖像画が流行しており、3度目の渡欧にて自身の肖像画をウンベールに、夫人の漢子の肖像画をパッシェに依頼します。パッシェには、4度目の渡欧の際、再婚した菊子の肖像画も依頼しました。(いずれの作品も現在展示中です)

近現代絵画・彫刻・工芸(第6展示室)

みんなで楽しむ美術館

よく見てみつけ！

7月29日(土)～9月11日(月) 会期中無休

本展では「探す」「内側を見る」「くらべる」という3つの見方を提案しています。

「くらべる」を扱った第3章「くらべてみつけ！」では、「くらべる」対象が展示室の外にあることも。作品の写真をパネルで展示していますが、やはり実際に見ていただくことが一番！みなさんの鑑賞の手助けになればと、「美術館の外でもみつけ！」と題したワークシートを展示室内にて配布しています。美術館で展示中の作品と、それに関連する野外彫刻について、地図をヒントに探し出し、みつけた場所に作品のシールを貼っていただくものです。まだまだ夏の暑い日が続きますが、美術館の周辺を散策してみませんか？見慣れた風景が、いつもとは違った雰囲気に見えるかもしれません。

古美術(第2展示室)

古九谷とその展開

7月29日(土)～9月11日(月) 会期中無休

近年、顔料の科学分析から、すでに1630年代から来日したイエズス会宣教師を中心として、九州においてヨーロッパ由来の顔料を用いた色絵磁器の開発が行われていたとする見解が出されました。またボストン美術館は、所蔵する「寛永年製」の銘を持つ向付について、絵付けが寛永年間(1624～1644)に有田で行われたと判断しました。こうして有田には、「赤絵」の始まりとされる1647年以前に色絵の技術が存在したことが判明し、古九谷のルーツが明確になりました。

そしてこのたび、当館とイタリアの独立研究者リカード・モンタナリ博士との共同研究による蛍光X線分析の結果、当館が所蔵する主要な古九谷の青と緑の顔料は、ヨーロッパ由来であることが判明しました。これで古九谷の図様をキリスト教思想の観点から読み解くことの正当性が科学的に担保されました。

特別陳列 前田家の至宝 I

9月16日(土)～10月22日(日) 会期中無休

学芸員の眼

室町時代に興隆した座敷飾りは、所有する書跡・典籍や美術工芸品によって家格や教養を披露する場でもありました。「東山御物」と呼ばれた、足利將軍家の蔵品を規範とする価値観は江戸時代まで継承され、大名による名品収集の指針となりました。その一方で、独自の美の規範により自己の主体性を表明する「好み」も茶人らによって推進され、千利休はこの点で天下人である豊臣秀吉と深刻な対立を招きました。美に殉じた利休の生き様は、藩祖、2代が利休直伝である前田家の文武二道観に深い影響を与えました。今回の展示作品を通して、その背景の一端をご理解いただければ幸いです。展示のタイトルから、名物刀剣の展示を期待されたかたもいらっしゃると思います。名物刀剣の展示につきましては、機会を改め、ぜひ実現したいと考えております。



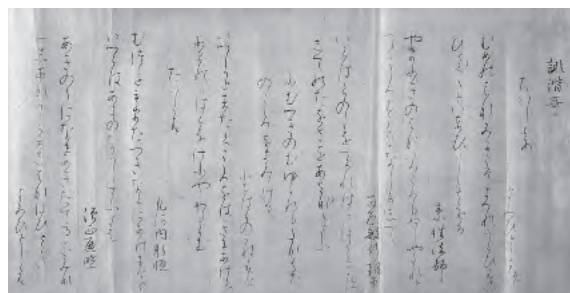
重文《茄子茶入 銘 富士》前田育徳会蔵

室町時代末期、戦国大名による分国間の抗争から天下統一を目指す者が現れます。名門の大名家ではなく、武力と知略により下剋上する成出者と呼ばれた彼らにとっては、自身の権威付けが重要な課題となります。將軍との関係は必須でしたが、織田信長に擁されて15代將軍となった足利義昭は、やがて信長により京都から追放されました。

しかし、足利將軍家は北山文化や東山文化の推進など、文化においても中心的な存在でした。そこで織田信長、豊臣秀吉は足利將軍家に倣い、武力のみならず、文化力でも自身を権威付けることに注力しました。このような背景から、信長と秀吉に仕え、千利休にも茶の湯の指導を受けた加賀藩祖・前田利家は文武二道を家風としました。そして、加賀藩の歴代藩主は、百万石大名の家格にふさわしい文化度を顕示す

ることに尽力しました。3代藩主・利常は、江戸幕府に対する対抗意識を鮮明に打ち出した、独自の美意識による名品の収集や、名工の招聘・支援などの文化政策を展開し、五代・綱紀はそれを拡大・継承しました。

本展では、10月14日から開催される「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川」の「前奏曲」との位置付けと、第2展示室で開催する「茶道美術名品展」との関連を意識して、茶道美術を中心とした前田家の至宝を紹介します。主な展示作品は、国宝《古今集巻第十九残卷（高野切）》（前半部）、重文《茄子茶入 銘 富士》（大名物・附属の堆朱丸盆はⅡ期で展示）、重文《武家手鑑》（三帖のうち下帖）、《肩衝茶入 銘 浅茅》（大名物）、重美《井戸茶碗 銘 福嶋》（大名物・嶋は箱書き表示）です。



国宝《古今集巻第十九残卷（高野切）》（部分）前田育徳会蔵

近現代工芸(第5展示室)

模様を楽しむ

9月16日(土)~10月22日(日) 会期中無休

今回コレクション第5展示室では「模様を楽しむ」というテーマでの特集をお届けします。模様という大きなくりではありますが、幾何学模様と言われる細かな点や線から構成されるものや、動植物など自然にあるものを取り上げて構成したもの、描くのではなく彫って魅せるものなどさまざまに発見・楽しめる作品を集めました。

入り口右手の固定ケースには着物がずらりと並びます。小宮康孝《江戸小紋菊通し着物》、小宮康正《夫婦櫛子小紋着物》など、着物の中でも小紋と呼ばれる全体に細かい繰り返し模様が入った作品を今回多く展示しました。展示作品のものではないのですが、小紋を染めるときに使用する型も一緒に展示いたします。

また、四季の移ろい期間中ではあまり展示のなかった木竹工作品も今回は展示いたします。神代杉の蓋側板に、神代桂と尾州松を交互に重ねて斜め格子に象嵌し、縦中央に黒柿を帯のように象嵌してあり、美しい木目や象嵌が印象的な、福岡則夫《神代杉木象嵌重ね箱》を。竹という素材の持つ粘りと弾力性を生かしながら、緻密で入念な模様あみと、渋みのあるほっこりとした光沢の橋本仙雪《竹組四方盤》ほか、木竹工から見つけられる模様の美しさをお楽しみください。この特集展示ではわくわくわーくしーとを用意しますので、オトナも子どもも作品鑑賞を楽しむひとつのヒントとして、皆様にお使いいただければと思います。



富本憲古《色絵更紗文蓋付飾壺》

古美術(第2展示室)

茶道美術名品展 I

9月16日(土)~10月22日(日) 会期中無休

今日石川県が茶道文化の拠点となっている歴史的背景として、加賀藩は、藩祖・前田利家、2代藩主・利長が千利休から茶の湯の指導を受け、さらに豊臣秀吉からのキリスト教棄教勧告を拒否して追放の身となった利休の高弟、高山右近も、利休の尽力により客将として迎えていることが挙げられます。千利休没後の茶の湯が、古田織部、小堀遠州、金森宗和らによって進められた大名茶となった時流において、3代藩主・利常が推進した文化政策に大きな影響を与えたのが遠州でした。大名茶興隆の一方で、利休の孫・宗旦は千家の再興とともに利休の佗茶への回帰を強く打ち出しました。利常は遠州、宗和とともに宗旦とも親交があり、宗旦の四男で裏千家4代の仙叟宗室が、晩年の利常に仕えています。利常が1658

年に没した後も仙叟宗室と加賀藩の関係は続き、5代・綱紀には1661年に初御見得して以後、30年以上にわたって仕えました。利休没後100年に向けた利休再評価の風潮は、綱紀の美意識にも大きな影響を与えました。

このような背景を持つ加賀の茶道文化は、文化による地域の個性を表明する気風とあいまって、明治維新後も歴史的名品の集積をもたらし、国宝《色絵雑香炉》をはじめ、その一部は当館の重要なコレクションとなっています。今回は重文《色絵梅花図平水指》野々村仁清作、県文《黒樂茶碗 銘 北野》初代長次郎作をはじめ、千少庵と親交があった俵屋宗達の県文《檜図》などの名品を展示します。



県文《檜図》俵屋宗達

近現代絵画(第4展示室)

Rey Camoy

—鴨居玲 晩年の肖像—

9月16日(土)～10月22日(日) 会期中無休

鴨居玲(1928～1985)は、今から38年前の9月7日、57歳の若さで亡くなりました。「人間とは何か」に迫った彼の作品や人生そのものは、今も多くの人の心を惹きつけてやみません。

鴨居は石川県金沢市に生まれ、宮本三郎(1905～1974)に師事し、金沢美術工芸専門学校(現：金沢美術工芸大学)で学びました。在学中から石川県現代美術展で県知事賞を受賞、二紀展初入選を果たすなど、早くから頭角を現しましたが、スランプに陥ります。1959年(昭和34)以降諸国を転々とし、1971年(昭和46)スペイン・バルデペーニャスでようやく制作・プライベートの両面において充実した日々を送りました。しかしひとところに落ち着くことのできない鴨居は、その後パリに移り1977年

(昭和52)2月に帰国、神戸に居を定めます。制作と病に苦しみ、死を意識していたこのころの作品には、鬼気迫るものがあります。

当館では毎年、鴨居の命日にあわせて特集展示を行っています。本年は1977年帰国以降の作品を中心に展示します。第1章でそれまでの画業を紹介し、第2章では晩年いかにして「人間とは何か」に迫ろうとしたのかを探ります。第3章ではセカンドストーリーとして制作以外の姿を紹介し、作品から受ける印象とは異なる鴨居の一面もご覧いただきます。作品と作家自身の魅力を味わっていただける機会となれば幸いです。

なお、第6展示室では、絵画・彫刻の優品を展示します。



鴨居玲《1982年 私》

近現代絵画・彫刻(第3展示室)

モダン 近代逍遙

9月16日(土)～10月22日(日)

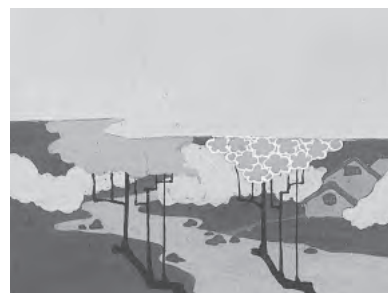
11月9日(木)～11月26日(日)

明治時代に始まる「近代」においては、人々の生活に大きな変化がもたらされ、わたしたちがいま(美術)と呼ぶものをめぐる状況にも影響を与えました。西洋発の新しい考え方に呼応し、これまで日本に存在したモノ・コト・ヒトがそのあり方を大きく変え、試行錯誤のなかでその意味内容を形成し始めた時代であるといえます。本展では、そんな時代における(美術)や新しい生活をあらわす作品を紹介いたします。

近代における(美術)の様相を反映した作品から、野外彫刻の原案や印刷物の図案を紹介します。野外彫刻は、西欧から「モニュメント」という考え方がもたらされて以降、いわゆる銅像として日本でもさかんにつくられました。最初期の銅像ともいわれる兼

六園の日本武尊銅像の原案として制作されたのが今回展示する《日本武尊像》です。最終的にはこの案は採用されなかったようですが、銅像という近代ならではのメディアに大きく関わる作品であることは間違いありません。図案からは浅井忠《桜》を紹介いたします。浅井の死後に出版された『黙語図案集』は、浅井による図案約150点を厳選した書籍ですが、当館所蔵の《桜》は同図案集に掲載されたものであることが今回確認されました。図案集とともに展示予定ですので、ぜひご覧ください。

ほかにも、近代の生活をあらわした絵画作品や、作家がみた石川のむかしの風景などをあわせて紹介する予定です。お楽しみに。



浅井忠《桜》

皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川—麗しき美の煌めき—

会期 令和5年10月14日(土)～11月26日(日) ※11月6日(月)は展示替のため休館

石川県立美術館と国立工芸館は今秋、皇室ゆかりの美術工芸品などを収蔵・展示する皇居三の丸尚蔵館の収蔵品による展覧会を開催します。本展は、石川県で行われる国民文化祭のメイン行事として開催するもので、皇居三の丸尚蔵館の収蔵品のなかから石川ゆかりの作品と、名品の数々を厳選してご紹介します。

まず石川ゆかりの作品では、旧加賀藩主前田家から皇室に献上された国宝《金沢本万葉集》（はちじよのみやとんだ）、八条宮智忠親王に嫁いだ前田利常の娘・富姫の婚礼調度と伝える狩野探幽《源氏物語図屏風》、そして石川出身の近代工芸の名工である諏訪蘇山（初代）《青磁鳳雲文花瓶》（国立工芸館で展示）や松田権六《鷺蒔絵筥》（国立工芸館で展示）をはじめとする多彩な作品が並びます。

また収蔵の名品では、伊藤若冲の代表作・国宝《動植綵絵》や、明治時代の金工の最高水準を示す海野勝珉《太平楽置物》（国立工芸館で展示）、そして皇太子（昭和天皇）の御成婚を祝して献上された《鳳凰菊文様蒔絵飾棚》（国立工芸館で展示）など、優美で気品あふれる作品をご紹介します。

皇居三の丸尚蔵館の収蔵品による展覧会は現在各地で開催されていますが、2館合同での開催は、全国初の試みです。第1会場の石川県立美術館では絵画や彫刻、書跡、刀剣を中心に、第2会場の国立工芸館では工芸を紹介し、その他にも石川県立美術館、国立工芸館、（公財）前田育徳会所蔵の関連作品を加えた、国宝・重要文化財を含む約120点という最大規模での展示となります。

行事予定

参加者募集！0才からのファミリー鑑賞会

あかちゃんをはじめとする小さなお子さんと、美術館デビューをしてみませんか？いろいろな美術館で乳幼児の鑑賞会をサポートしている富田めぐみ氏を講師にむかえ、コレクション展示室で作品を鑑賞します。それぞれの年齢に合った作品鑑賞の仕方、楽しみ方でご家族と一緒に展示室をまわります。

概要

日時…10月1日(日)①10時～11時 ②11時～12時 ③14時～15時

講師…富田めぐみ氏（NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会）

会場…石川県立美術館 第5展示室

対象…0才～小学生までのお子さんとそのご家族

定員…各回5組

料金…無料（高校生以下無料、ご家族内大人2名まで無料）

申込方法

インターネット(Peatix)にて9月7日(木)9時より受付

定員に達し次第締切

<https://0sai2023.peatix.com>

◆お問合せ

石川県立美術館 TEL:076-231-7580

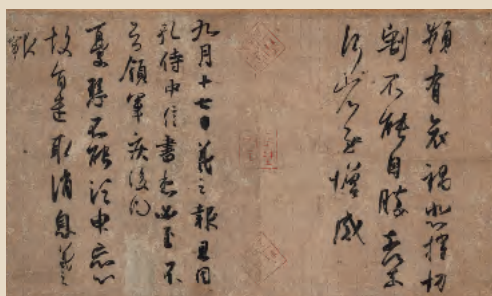


お申込みはこちらから！

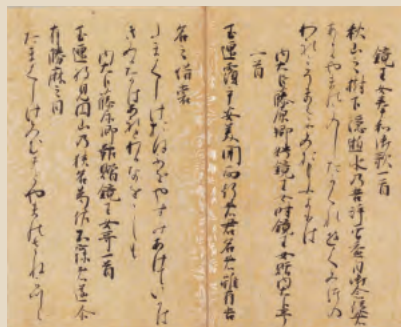
皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川 ―麗しき美の煌めき―

企画展Topics

会期：令和5年10月14日(土)～11月26日(日) ※11月6日(月)は展示替のため休館



国宝《揚王羲之書（孔侍中帖）》
[原跡]王羲之 前田育徳会 後期展示



国宝《万葉集 卷第二・第四残巻（金沢本万葉集）》
藤原定信 皇居三の丸尚蔵館収蔵 前期展示



国宝《動植綵絵 牡丹小禽図》
伊藤若冲 皇居三の丸尚蔵館収蔵 後期展示



《源氏物語図屏風》(右隻) 狩野探幽 皇居三の丸尚蔵館収蔵 前期展示



国宝《刀（名物太郎作正宗）》正宗 前田育徳会 通期展示

次の展覧会

令和5年10月27日(金)
～11月26日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室
特別陳列 前田家の至宝Ⅱ		茶道美術名品展Ⅱ
第5展示室	第3展示室	第4・6展示室
特別陳列 初代徳田八十吉とその時代Ⅰ 【工芸】 11月9日～11月26日	モダン 近代逍遙 【近現代絵画・彫刻】 11月9日～11月26日	優品選 【近現代絵画・彫刻】 11月9日～11月26日

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
9月4日は第1月曜日より
コレクション展示室無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

9月は無休で開館しています

「石川県立美術館だより」に広告を掲載してPRしませんか？

広報紙広告ならではの
メリット

- 地域に根ざした情報発信
- 石川県での知名度向上
- 自治体発行の信頼度の高い広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください！
お問い合わせ **092-716-1401** (代)

株式会社 **ジチタイアド**

福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG 薬院ビル7F 財源確保

※株式会社ホープの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に分社化しております。

石川県立美術館だより
第479号(毎月発行)
2023年9月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。